

令和 5 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

令和 5 年 5 月 25 日

学 長 殿

所属部局・職名

福島大学大学院共生システム理工学研究科・学生

黒澤萌香

助成の区分 (該当するものに○)	学会参加助成・学術出版助成・学術論文掲載料等助成
事業名	European Geoscience Union General Assembly
成果の概要	<p>2023年4月23日から28日にかけて、オーストリア（ウィーン）にて開催された国際学会「European Geosciences Union General assembly 2023（以下 EGU23）」に現地参加した。26日に、セッション「Geoscience problems related to radioactive contamination originated from nuclear power plants and other human activities: Chernobyl, Fukushima, and Zaporizhzhia」にて、ポスター発表を行った。発表タイトルは、「Long-term dynamics of ^{137}Cs accumulation at an urban pond（都市域ため池における長期的な ^{137}Cs 蓄積動態）」である。発表者は、黒澤萌香，難波謙二，和田敏裕，脇山義史である。発表要旨は、EGU23 のホームページ (https://www.egu23.eu/) にて掲載された。</p> <p>本発表は、除染後の都市域ため池における ^{137}Cs 蓄積プロセスについて着目し、集水域が除染後の ^{137}Cs 蓄積プロセスにどのような影響を与えたのかを報告した。除染後の底質の ^{137}Cs インベントリの推移、池水の ^{137}Cs 濃度の推移、流入水、池水、流出水の ^{137}Cs 濃度の結果から、除染後の ^{137}Cs 蓄積プロセスについて、明らかにした。また、ため池周辺の河川水の ^{137}Cs 濃度、底質、懸濁物質の窒素安定同位体比を用いて、都市域の影響について推察した。参加者からは、都市域における懸濁物質の特徴について、質問が複数あった。発表後は、環境放射能を研究している若手研究者同士で意見交換や交流ができた。また、ほかのセッションの口頭発表、ポスター発表に参加し、国外の研究者の発表を聞くことで、安定同位体比を用いたソース分析や、都市域における水環境について、新たな知見を得ることができた。</p>